

高等学校グランドデザイン会議第3回上北・三八地区部会概要

日時：平成19年 2月15日(木)

13:00～15:00

場所：十和田合同庁舎E会議室

<出席者>

加福部会長 石川副部会長 石橋委員 佐藤委員 平葎委員 野田委員 古舘委員
益川委員

開会

司会

それでは定刻になりましたので、「高等学校グランドデザイン会議 第3回上北・三八地区部会」を開会いたします。次第によりまして、検討会議及び専門委員会の概要説明ですが、検討会議について加福部会長から説明をお願いします。

検討会議・専門委員会概要説明

【部会長から、配布資料に基づき説明】

司会

続きまして、専門委員会について事務局から説明をお願いします。

【事務局から、配付資料に基づき説明】

司会

それでは次第によりまして、意見交換に入りたいと思います。ここからは加福部会長に進行をお願いしたいと思います。

意見交換

加福部会長

それでは、第1専門委員会で話された内容を示した資料3と、第2専門委員会で話された内容を示した資料5について協議して行きたいと思います。但し、前回の会議で分かりましたが、第2専門委員会で協議する、社会の変化と多様な進路志望に対応する学

科・コースの在り方については、かなり積み残しがあるようです。その部分を協議しなくて良いのか不安があるものですから、私達の部会では若干項目だけでも追って話を進めておきたいと思います。また、意見がありましたら、追加でこの次に報告したいと思いますのでよろしくお願いいたします。さて、我々は主に高校生の姿全般について話したものですから、それだけでは足りないと思っております。学科・コース等の今後の方向性については、農業や工業そして商業などの専門高校では、特色を出そうと工夫した学科名を作ったようですが、逆にその名称から学習内容を想像する事が難しく、中学生の募集や地域での理解に影響があると考えられますので、学科名はシンプルにして学習内容を濃くした方が良い、という意見があります。これは我々の部会で少し話になったかと思いますが、その他にこんな学科・コースが考えられるという意見はありますか。例えば、入学したは良いがこんな高校に来るはずじゃなかった、というミスマッチの話がありました。農業高校、工業高校、商業高校、水産高校、普通高校を問わず、そのような子が出てくると指導も大変ですし、その子に対する学習指導も大変です。

A 委員

様々な年代で内容が変わってきているのは理解できますし、名前が変わって行く状況も理解できるのですが、中学生への広報をもう少ししても良いのではないかと思います。今でもキャンパス説明会のような学校説明会はやっていると思いますが、さらに希望者に対しては、勉強している内容や各学科の違い等を分からせる機会を増やすと良いのではないかと思います。

加福部会長

指導について、保護者あるいは生徒の方に、もう少し細やかな指導が必要ではないか、という事ですよね。

石川副部会長

それもあるでしょうが、実際に経験して難しさを感じるのは、どこの高校でも体験入学を実施する訳ですが、同時期にいくつもの学校が行うために、それに随分振り回されてしまうという事です。子ども達にはいくつも受けてみたいという希望がある一方で、中学校側としてはカリキュラムが食いつぶされてしまう、みたいな捉え方があったりします。必要性がある事については共感しているのですが、あとはやり方の問題だと思います。また、仮に体験入学やPR活動をたくさん実施したとしても、やはり限界があると思います。近くの工業高校を考えてみた場合、電気科と電子科について、大体にしてどう違うのでしょうか。そもそもの基本的な部分が子ども達も良く分からないままに行くみたいな所もありますし、ましてや中学校から入学する段階では興味があったものでも、途中で違うものに興味に移ったりします。そういう意味では、入り口は広くして途中で選択肢を狭めて行けるような仕組みが必要だと思います。括り募集というのがある

そうですが、それに当たるのですか。

加福部会長

それとはまた少し違う話かと思えます。高校に入学してからの問題ですよね。生徒が、別の学科に行けば良かったな、とか、自分に合っていない、とか感じるのは。高校に入学後、途中から学科の変更ができるようなシステムになれば、もっと子ども達は違うのではないかという事ですが。

B 委員

総合学科であれば、1年次には同じ授業を勉強しますが、例えば、商業科であれば、1年次から専門的な授業をやって行かないとそれ相応の力が付きません。ですから、学科で見ると、括り募集については一長一短があるのではないかと思います。

石川副部会長

私立高校であれば、「機械系」のようなやり方で募集して、2年次からさらに細かく勉強して行く事もあるようです。商業系であっても、商業科だけではなく情報処理等もあるかと思いますが、そのような仕組みは可能なのでしょうか。

加福部会長

事務局で何かありませんか。

事務局

括り募集というのは、学科にこだわらず入学させて入学後に分かれるものでありますが、第2専門委員会の学科・コースの在り方の協議の中で、専門高校の中でも特に工業高校について、括り募集の導入について俎上に乗せており、可能性はあります。

石川副部会長

工業系であれば、機械いじりやものづくりに興味があるというのは変わらなくても、後で細かく方向性が分かれる事があるかと思えます。そのような仕組みや工夫は価値があると思えます。

加福部会長

これからの高校は、そのような事を考えて行かなければならない、という事で皆さんよろしいでしょうか。そういったPRの仕方、説明、内容の指導の仕方については、もうひと工夫必要だという事でよろしいですか。その他に何かありますか。

B 委員

中学校の先生方自身が説明会に出席した時に、あるいは高校独自の説明会に出席した時に、例えば、普通科と商業科ではどちらが就職に有利ですか、という聞き方をしてくるのです。昔から商業科というと即就職というイメージが非常に強いのですが、今の時代は商業科からでも大学に進む時代になってきています。従って、中学校の先生方が子ども達に教える時に、その辺りも踏まえて教えていただければと思います。

加福部会長

先日も話し合いましたが、専門高校であっても進学する生徒は増えてきており、その指導体制をきちんと取るべきだし、教員配置もきちんと確保して大学進学に対応するべきだ、という事でよろしいですか。

B 委員

よろしいです。

加福部会長

こればかり話していても前に進めなくなるので、次へ移ります。普通科の全日制単位制の在り方について、どのように考えますか。青森東高校と八戸北高校で既に始まっていますが、そのような事も踏まえてお願いします。

石川副部会長

正直な所、良く分からないのですが。

加福部会長

そうかもしれません。これは、ホームルームの問題がまず挙げられます。ホームルームはある事はあるのですが、授業の時間に合わせてそれぞれ自分が動いて行くという事で、少し行動がバラバラになる訳です。しかし、実施している高校からは特に問題無い、と聞いています。

石川副部会長

大学のようなイメージでしょうか。

加福部会長

そうですね。ただ、中学校を卒業して即対応できる、という訳には行かないので、そこが難しい所だと思います。指導体制がきちんとしないと。その辺りについて、事務局から何か情報はありますか。

事務局

青森東高校、八戸北高校とも、まだ卒業生を出していませんので、成果を挙げるのは難しいのですが、得ている情報の範囲内でお話ししますと、今までのホームルーム制をミックスしたような形になっており、生徒が好きな授業だけを個別に取るという事にはならず、ある程度のホームルームの形を保ちながらも、年次制に応じた緩やかな集団を形成し、その中で生徒は自分の進路志望達成に必要な教科を取っています。当然、空き時間が出てくる訳ですが、その時間は自習室を有効に活用しています。その自習室の活用の仕方についても担任に当たる教師が指導しながら進めています。現状では、大学のように好きな時間に好きな授業を受けるような体制ではなく、高等学校としての形を残すという事になってます。

加福部会長

今の話ですと安心ができます。ただ、入学する生徒は、自分でやるという目標・目的を持っていないと出来ないという事ですね。また、三本木高校に附属中学校が出来ますが、あちこちでそういう体制や学校のシステムが変わってくるのかもしれませんが、ただ10年後というと先は見えません。しかし、見えないけれども変わって行くかもしれない訳ですから、私達もあちこち隣近所の人と話をしてみる必要はあると思います。また、そのような事がありましたら、皆さんでまとめてくれればと思います。

次に新しい学科を設置する必要性はあるのか、という事についてです。社会の変化に対応した新しい学科を作る事は望ましい事だと考えます。ただし、予算や人的配置は避けて通れない事であると考えます。新しい学科を作るには相当のエネルギーが必要であり、職員の意識の問題が大変重要であると思います。また、必要であるから新規に学科を設けるという事は、必要性が薄くなってきたから既存の学科を無くするという論法にもつながる事でしょう、という意見を述べている方がいます。新しい学科、これは良く言われるのは東青・下北地区の六ヶ所原燃に関係した学科を作れ、という事だと思えますが、議員などの意見もあるとの事ですが、この地区としてはどうでしょうか。

石川副部会長

十和田西高校の観光科等は、地域の特殊性を考えて設置したのでしょうか。

加福部会長

十和田湖というのが頭にあったのかもしれませんがね。

石川副部会長

そういう背景があったとは思いますが、それほど人気が高い訳ではありません。

加福部会長

やはり、これからは青森県全体を見通して考える必要があると思います。自分の地域

の事だけ、今だけ、を考えると、そういう結果になってしまいます。そういう意味では、この地区で新しい学科を設ける事はどうなのでしょう。工業とか、商業とか、農業とか、そのような高校で頑張っている先生方に考えてもらうという事で、この部会では新しい学科の設置には触れないという事でよろしいでしょうか。それと、私が気になるのは、企業が求めるのはどのような方向性かという事です。これをもう少し話し合ってみる必要があるのかなと思いますが、これからの高校はもう少し特色を活かして云々という話はいくらでも出てくるのですが、果たして本当にそうなのかという事です。厳しい経済状況下であっても、それはそれなりに子ども達は勉強しなければならないし、親達も勉強させて、何とかそのような生活から脱皮しようという意識です。そういう意味では、厳しい指導が必要だと思しますので、そのような事についてもこれからは少し話をしなくてはなりません。地域の高校はこうあるべきだとか、郡部の高校は無くなるとか、市部の高校が一つ無くなるという事になった時に、競争しなくてはならないし、あそここの高校に入るのは金がかかり大変だ、という事になっても、たくましい生徒達が出てくるのを期待しながら指導したり、家庭でも育てると思います。そういう方策を考える必要があるのではないかと思います。この会議にずっと出席して感じるのは、学習指導に対する厳しさが足りないのだ、という事です。

それでは、統廃合による新しいタイプの高校の可能性について話をしたいと思います。例えば、先日の新聞報道によると、工業高校は工業高校と、普通高校は普通高校と一緒に、という事でした。これはどのように考えたら良いのでしょうか。異なる専門高校の統合について、色々な事情により学校を建てて、今まで子ども達を育ててきているし、歴史などの色々な事があるのですが、そのような事を考えながら、統廃合にはこういった事を、という注文がありましたらお願いします。いかがですか。

C 委員

読み直しする事により余計にその深さを感じたのですが、先日の会議では基準を設けるという事で、私もそのとおりだと思いました。しかし、そう思いながらも、果たしてどういう基準が良いのだろうかと考えたのですが、自分なりの良い考えは思い浮かびませんでした。例えば、加福部会長がおっしゃるとおり、歴史だとかに立ち返ってしまうと、なかなか思い切った統廃合はできかねる事になります。ある程度はやむをえないとは思いますが、それらを加味しながらも線引きをして行く事になるのかなと思いました。

B 委員

例えば、工業高校でも農業高校でも、設備の問題があります。工業高校は工業高校で土地があり、農業高校は農業高校で土地がありますし、距離的には、それほど近い所にはないような気がします。例えば、お互いに無い学科があるのであれば、そちらへ行って互いに交換しあう、教員は主に一方の学校にいる、というような事が考えられますが、

統合するにしても、通学をどうするのか、スクールバスの問題だとか、寄宿舍の問題だとか、様々な問題を含んでいると思うのです。私自身、これが良いのではないかという結論には至っていません。

C 委員

募集人員に対してパーセンテージが低い状況が続いている高校は、やむをえないのかなという感覚を持っていました。先程おっしゃったような、例えば十和田市内で言いますと、農業高校と工業高校は同じ路線上にあり、割と近いと言えます。農業高校は広大な敷地を持っていて、凄い設備を持っています。工業高校も様々な設備が整っています。どちらもメリットがたくさんあると思いますが、人が欠けてきたりすると本当に色々な課題が出てきて、簡単にはいかないと思います。

加福部会長

これは、後で同じような事が何遍も出てくるのですが、わざわざ残りの部分をという事で話していますが、統廃合については資料3に出てきますから、もう一度やってみましょう。それで当部会の意見を整理したいと思います。資料3を見てください。今日はこの資料3と資料5を協議します。

資料3の校舎制の今後の方向性ですが、先程事務局から資料の説明に先立ち、先日の新聞報道に関連して、校舎制については廃校を前提にしたものではない事、あくまで専門委員会での協議した内容が報道されただけで県教育委員会が何か意思表示した訳ではない事、専門委員会においては校舎制の高校は一律に廃止すべきだという意見にはなっていない事、以上3点について説明がありました。その事を踏まえて、特に第2次実施計画で実施した導入校の今後の在り方というのは、資料に色々書いているのですが、これにあまり捕らわれないで、ここの地区の事について話を進めて行きたいと思います。第1専門委員会では全県的な視点という事でバンバンやっていますが、地区みたいに優しくやっているのと、どうしても話が進まないのです。彼らも検討会議から宿題を出されてやっているのです。ここの地区部会では、この地区の状況、この地区の人達、地域の子ども達の事を考えながら話をして行きたいと思います。さて、校舎制については、教育効果から存続すべきではないと考える、という意見を持っている人もいますが、これはこの地区ではどのように考えますか。統廃合も絡めてお話ししましょう。やはり、私達は何故この会議をやっているのかというと、生徒数が少なくなるという大前提があります。順序として、まず先生が少なくなるのではなくて、生徒達が少なくなります。地区毎に生徒が減る資料も前に出されましたし、あれを見て我々は考えなくてははいけません。新郷村の事を考えた時に、あちこちに下宿したり、親が毎日送り迎えしたりという事をやっている訳ですよ。

D 委員

ええ。

加福部会長

これから先に子どもはまだ少なくなる事を考えると、どうなのでしょう。分校あるいは校舎制とありますが。

D 委員

分校というのは昔もありました。それが、子ども達の数が減って無くなりました。

加福部会長

そうですね。小・中学校では統廃合されて無くなりました。それを考えながら、高校はどうあるべきでしょうか。

D 委員

一番無難なのは、近い所に1校ある事です。それと、交通の便と下宿・寮の問題です。昔は下宿が多かったのですが、今はアパート住まいが多いです。新郷の子で言えば、三本木農業高校には寄宿舍があるので、それが一番無難だという事になります。そういう制度と言いますか、施設があれば良いと思います。

加福部会長

中学校側から見ると、この地区の保護者の人達はどのような事を考えているのでしょうか。十和田市内には三本木高校、三本木農業高校、十和田工業高校があり、七戸までいけば総合学科である七戸高校もあり、選択肢はある程度あります。それも縮小化される訳ですから、目に見えています。

石川副部会長

八甲田高校は校舎化になりますが、私は、そういう整理は賛成ですし、有りだと思えます。ただ、何と言いますか、理想的な話をしても、経費の問題だとかの現実的な部分とぶつかる部分はありますよね。資料に出ている意見の中であれば、子ども達の在籍率と言いますか、子ども達の入学してくる状況についてある程度のラインを決めて、そこに満たない場合はやはり最後は統廃合はやむをえない、みたいな形を制度として残さなければならぬと思います。八甲田高校は統廃合が決まったのでしょうか。

E 委員

平成19年4月から校舎化です。

石川副部会長

それでは、その先の統廃合が決まっている訳ではないですよ。需用がたくさん有り続けられれば、勿論残して良いと思います。

加福部会長

ただ、保護者としては、あそこはいずれ無くなるのだと子どもに言っています。子どもの事を考えると、志望状況を見てみると、段々そちらの高校を向かなくなりますよね。資料3の1ページに、校舎制の学校運営は、生徒会活動や部活動に支障が多く、また、生徒の心への影響が心配される、とありますが、そのような事を考える人はいますかね。これは、学校の先生しかあまり考えていないと思います。保護者は、何故生徒会活動に支障かと疑問を持つかもしれません。そういった所は、保護者の方に知ってもらいたいと思うのです。子どもが少なく、学校が縮小されるという事は、本当に子ども達の活動に支障があり、また、活動費が不足して部活動の数が減らされたり、文化的な活動も制限されたりします。指導する先生も少なくなります。子ども達が思ったような活動ができなくなる。そこを地域の保護者は考えて行かなければなりません。そのような所を、今回皆さんの方で、周りの人から話を聞いておいていただければ、もう少し統廃合や校舎制について意見がたくさん出てくると思います。

E 委員

校舎化とは分校化ですよ。初めは小豆島の事を思い浮かべて、1人1人きめ細かい教育が出来て素晴らしいなと思ったのですが、高校は義務教育ではないのです。小学校とかなら良いのですが。それと、校舎化になった場合、校長先生と養護の先生と担任の先生だけがいて、生徒が何か聞こうと思っても何も聞く事ができなくなります。要するに、あくまでも例外として校舎化を認めるのです。第1専門委員会では、高校としてのニーズに合わないし、本校としての機能が果たせないのではないかと、いう事でした。校舎化をすごく美化していたのですが、凄い現実なのだという事が分かりました。やはり、八甲田高校へ生徒が入学するのであればこのようになっていきます、という事を中学校の先生がちゃんと教えて、それで納得して選ぶのだったら良いのですが、例外として残っている、高校としての機能を果たさない学校へ入学して、果たしてその子の将来のために良いのかなと思うのです。だから、私達は、下宿をしても何をして、色々切磋琢磨できる高校へ行って欲しいと思います。それと、この間、基準を設けるべきであるという部会の意見を第1専門委員会において話すようお願いされましたので、強く言いました。そうしましたら、校舎化の高校について、3年で50パーセントというのではなかなか学校が無くならないそうです。という事で、60パーセントではどうかという案が出ましたので、多分それで決まるのではないかと思います。

加福部会長

ありがとうございました。くどくどとやっていた良かったなと思います。小学校であ

れば、先生は色々な教科を持つ訳ですけど、中学校や高校になると自分の教科以外を教えるのは難しくなります。どうしてもという場合はありえますが、殆どの場合は専門の先生が指導します。教員の確保が難しい、教員を確保しなければならないという話をしたのは、そういった理由によるものです。分校を卒業したばかりに、ある教科を勉強しなかった、という事が無いようにするためには、専門的な知識を身に付けさせるためには、専門の先生がいた方が良いでしょう。だから、最終的にどうしてもできない場合には、その専門の先生がしばしば校舎化の学校へ行くという意見が出ていましたよね。

E 委員

だけど、県としてはそれは不可能だと言うのです。

加福部会長

それはできないというのではなくて、非常に難しいという事だと思います。時間の組み合わせだったり、行ったり来たりというのも大変ですし。

E 委員

そうなのですか。

B 委員

全くできないという事ではなく、中心校から先生方は出向いて行くでしょうし、校舎制になっても色々なケアがあるかと思えます。ですから、その辺が校舎に説明する時の難しさだろうと思えます。地元の保護者の側からすれば、地元の高校が校舎化になってもその高校へ入れたいという方は当然出てくるでしょうし、あるいは、先日も話に出ていましたけれども、地元ではなくても、いわゆる世間で言う進学率の高い高校へ入れたいと考える方もいるでしょうし、それは保護者の考え方なのですよね。ですから、地元の高校が例え校舎化になっても、そこに入って頑張れば大学でもどこでも入れるのではないかと思っている保護者も、色々説明した段階では出てくる可能性はあります。しかし、やはり少人数になってくるとというのは、いずれにしても大変だと思います。一定水準の環境を保つ事ができません。部活動だって何だって、非常に苦勞するような気がします。

加福部会長

2 ページを開いてみてください。平成 21 年度以降の新たな校舎化、いわゆる分校化導入の可能性という事ですが、教育水準の維持と教育の機会均等とのバランスをどのように取るのか、統廃合の基準又は存続の条件等を設定するのか、という検討課題があり、第 1 専門委員会ではそこにあるような意見を挙げています。生徒、保護者は通学の利便性にも増して学力向上の可能性を強く求めている、これは確かに検討会議等では出てき

ます。ただ、私は、郡部の事、保護者の事、経済的な事、交通の便等を考えると、あまりやたらに校舎化、分校化にして欲しくないという意見を述べたのですが、皆さんはどのように考えますか。ここの部会としてまとめて行きたいと思います。

C 委員

私も実は部会長の意見に賛同する一人です。様々な地域事情等で校舎化が必要だ、どうしても残して欲しい、という意見があるにはあるのかもしれませんが、やはりその生徒自身のモチベーションという所で、何のために義務教育から高校へ進むのであろうか、となった時に、その先に進学するにしても就職するにしても、そういった目的があるからこそ、進んで勉強等を頑張る生徒とそうではない生徒との違いが出てくるのだと思います。色々なマイナス的な、ただ受け皿とするために校舎化して高校を残すというのは、理由が弱いと思います。

加福部会長

皆さんどうでしょうか。できるだけ校舎化は避けるべきだ、と言いますか、あるべきではないのでしょうか。ただ、残すという事はどういう事なのかという時に、その、ただ、という部分が問題な訳です。

E 委員

私は、校舎化はやはり。

加福部会長

するべきではないという事ですか。

E 委員

上十三地区では、8学級も減らすのですよ。いつも考えてみるのですが、どうしても後の方にしわ寄せが行くのです。8学級も減らすというデータが出ています。6学級規模じゃないと進学に対応できない、4学級では無理だと言う時に、校舎化の高校を残して行くと2学級の学校がドンドン増えてくるのです。そうすると、今度は2学級の学校がガタガタになってくるのです。2学級になれば、ちょっとすれば校舎化ですよ。ここを考えて欲しいのです。勿論校舎は残してあげたいと思うのですが、その辺りはどうでしょうか。

加福部会長

皆さんどうですか。最終的には統廃合しなければ、上級の学校へ行けない、自分が専門的にやりたい事ができない、という事で満足できるのかという事です。

E 委員

統廃合は難しいという結論になるのでしょうか。工業高校と農業高校が一緒になる過程で新しい学校を作る、というのは良いけれども、今の時点でそのように一緒にして良いのか分かりません。統廃合は難しいので学級減で対応します、という事になってしまうのでしょうか。

A 委員

三八地区でも13学級が減ると言われていますが、南郷高校が尻すぼみになって無くなったとしても、田子高校、南部工業高校が1学級の校舎化になる可能性は見え見えな訳です。あっと言う間にその辺りは生徒数が減ると思うので、校舎化をしていると規模の小さい学校だけが残ってしまって、果たしてそれで学力が維持できるのかと心配です。現実には全部の学校が1学級ずつ減らさないと13学級にならない訳ですが、そういうやり方ではなく学力を維持できる大規模校を残すべきだと思います。

加福部会長

この間の新聞報道にその事が出ていましたね。平成18年度までに三八地区13学級、上北地区8学級、県内6地区で54学級を減らす必要があると。

E 委員

総合学科は4学級を維持だとか。

B 委員

それは決定したのですか。

E 委員

いいえ。

加福部会長

そうではありません。そのようにしないと。

A 委員

今の規模は維持できないという事です。

加福部会長

維持できないのです。あくまでも例えば基準はこういう学級数ですよ、という事なのですが、果たしてそれを地域の人には理解できるのでしょうか。できないですよ。それでは、それをどのように説明しますか。私に説明しろと言われても上手くできませんが、

隣近所に行って聞いてみてください。子どもがいません、という言い方しかないのです。しかし、我々は毎日の生活をしている中で子どもの少なさを実感できている訳ではありませんので、理解ができないのです。特にこれから受験を控えている子どもを持つ保護者は、何でこの学校をこんなに減らさなければならないのだろう、という話になる訳です。

E 委員

例えば田子高校だって、平成30年の中学校卒業生が50人くらいになるとすれば、現在の募集人員は70人ですから、足りない分をよその地域から引っ張ってこれるか、という事だってある訳です。地域の人が入学しないで、岩手県から来てくれるのかと思います。

A 委員

多分そのようになった時には、学力優先で市部の学校に子どもが行くと思います。子どもが行かなくなると思うので、残したいとは言いながらも現実的には立ち行かなくなると思います。

加福部会長

今の田子高校だって、地域の学校だという事で地域ぐるみで頑張っています。そういう意味では、地域にある学校というのは周りからの応援があって非常に良いのですが、果たしてその子ども達がどうなるのでしょうか。それから、子どもが少なくなり今後どのように進むのかを考えると、10年後はどうかを今の我々は考える必要があります。

E 委員

ここは地区部会ですが、県に報告が行くと県全体の話ですし、通学区域は県内一円です。そうすると、地域に密着する高校とはどういう事なのだろうかと思うのです。県内一円から生徒が来る、という発想になる訳ですから。ですから、地区部会に来ると悩んでしまうのです。

加福部会長

県立の高校なのだから、どこの高校へ志願しても良いという事を打ち出したのは、そのような意味だと私は解釈していますが、きちんと理解していないといけません。果たして、そんなにあちこちの学校へ行くのかという事です。例えば、県内に1校しかない水産高校は別です。津軽の子どもでも水産高校で勉強したいという事であれば、八戸水産高校に行く訳で、これは良いのです。大学もそういう意味では同じです。そういった事を我々はもう一度考えて話をしないといけません。スポーツの盛んな学校に行くと全

国大会に行きやすいから、とか考える人もあちらこちらにいますので、みんな同じ大学を受ける事になるのですが、それでどうしますか。子どもは少なくなっていて、どこの学校でも受けられるという状況の中で。その話は行き過ぎかもしれませんが、我々はそういう事をきちんと話しておかないと、地域の人達に説明ができない、という事になります。非常に難しい問題ですが、結論としては、統廃合はやむをえないという事は前にも一度出しました。校舎化については、今しばらくは基準を設けて統廃合をやる必要がある。ただし、現実的に子どもが少なくなるのだから、初めから校舎化はしない方が良く、という結論でいかがでしょうか。非常に難しいです。地域の人達、地域の子どもの事、色々考えると校舎化にしておいて少しでも残しておきたいと思うけれども、学習の内容だとか、これから先の子どもの事を考えると、やはり統廃合して、そこできちんと教育を受けて、競い合って、頑張って、良い大人になってもらいたい、というのが我々の部会の意見という事でよろしいでしょうか。大体そういった事になりますかね。それでは、休憩を5分くらい取りたいと思いますがよろしいでしょうか。次は定時制の今後の方向性等について話し合います。

~~~~~ 休 憩 ~~~~~

加福部会長

それでは、定時制の今後の方向性、(ア)定時制課程の役割と在り方、の、夜間定時制、工業高校の定時制の役割、(イ)全県的視野での適正な学校配置、の、統廃合の必要性、統廃合基準を設定するのか、について、一気にまとめて話をしたいと思います。この地区の定時制は、夜間定時制については八戸中央高校と三沢高校にあります。需要と言いますか、生徒数から見るとどうですか。

石川副部会長

この地区では三沢高校にありますけれども、前期後期制の新しい入試制度になってからは、需要が高まったのかなという感じです。適正な数という点では、三沢高校について言えば存続させるべきであり、逆に言えばこれ以上増やす必要はないと思います。

加福部会長

八戸市の定時制の情報は何かありますか。

B 委員

八戸市の定時制と言いますか、これまでの定時制については、昔からの感覚として働きながら勉強するというものがある訳ですけれども、一言で言えば、多様な生徒を引き

受けてくれている学校であり、できれば残してもらいたいと思います。全日制普通科だとか職業高校だとか様々ありますが、その生徒毎の状況がありますので、やはりどこかで手を差し伸べてくれるような学校があって欲しいと思います。

加福部会長

第1専門委員会でも定時制について話されているようですが。

E 委員

部会長から聞いて、意見を述べさせていただきました。やはり、救われる者がいる以上は残して行く方向で良いのではないかと、という意見をいただきました。

加福部会長

この地区では、三沢高校は適正な位置にあるという事ですよ。三八地区の方でも色々話を聞いていたのですが、例えばこのような時代ですから、大工さん等色々な仕事に就いている方々自身がもう少し勉強しなければ駄目だと考えて、年齢は上でしたけれども、機械について色々勉強しに来ていました。そのような学校がなければ勉強する機会が無いのですから、そういう意味では大事な学校です。それから、一時期、普通高校からお前達は落ちこぼれた子ども達をよこしているのではないかと、という事を言われた事もありました。定時制とはそのような学校ではないのだ、という事を、定時制に務めている教員達は一生懸命に言っていました。とは言いながらも、子ども達の面倒を見ていました。私が送った子ども達の中にも実際にいたのですが、定時制に行って、自分で夜時間を見つけて勉強して大学進学を果たした人がいます。その人は普通高校へ入学したものの不登校になって一時は家庭に引きこもりましたが、改めて定時制に行って立ち直り、今は東京で仕事に就いています。そのような人はたくさんいます。先程の発言にあったとおり、そのような機会を与えてあげる場所が無いと駄目なのです。今の所、定時制はそのような役目を担っていると思います。それと工業高校の定時制は無くしても良いのではないかと、という話が出ました。それもどうかと私は思うのですが。この地域では、定時制の存在と言いますか、役割は非常にあるので残して欲しいし、続けてもらいたいという事でよろしいですね。

それでは、第1専門委員会の方は終わって、資料5の第2専門委員会の方へ入りたいと思います。これは県立高等学校と中学校や大学等との連携の在り方、特にこの地区は中高一貫教育として三本木高校に附属中学校ができる事になりましたので、その話題を中心にまとめて行きたいと思います。学校連携の今後の方向性、今後の中高一貫教育を含めた中高連携の在り方の中で、上から2つ目に、連携型中高一貫教育の検証と今後の在り方、とあります。田子高校など先進校の分析結果を見ていないので判断しかねる、併設型中高一貫教育の拡充及び中等教育学校の可能性、今年度から始まった県立三本木高等学校附属中学校云々とあります。地元の中学校としては、そこに子ども達をみんな

持って行かれる、みんな持って行かれるという言い方は言い過ぎかもしれませんが、結局その中学校から中学生は減り、生徒は三本木高校附属中学校へ向かって行くという事ですから。やはり、新しい中学校が出来た感じなのではないでしょうか。

#### 石川副部長

併設型は面白い試みだと思います。逆に言えば、今までやってきた連携型にはあまり賛成していません。月並みな言い方をすると、中途半端な感じがします。やるのであれば、併設型が良いと思います。殊に県立三本木高校附属中学校に関して言うと、多少個人的な意見になりますが、私は三本木高校に併設させたという事に課題があると思います。三本木高校に併設させるという事は、地元の人にとって、この地区において三本木高校というのはそれなりの学校であり入りたい高校です。県立三本木高校附属中学校に入る事によって、三本木高校へのフリーパスが手に入る。中高一貫教育の狙いというのは、6年間というスパンで子ども達を伸ばしてやるという事ですから、例えばですが、六戸高校に設置したとすればこれだけの倍率になったのでしょうか。高校入試という事は現実にありますから、むしろ中堅校である六戸高校とかに併設して中高一貫教育をする事によって、より子どもを伸ばせるのではないかという事に興味があります。もっと言えば、今みたいな高い倍率で、三本木高校に入れるような上位の子どもをたくさん取れば、黙ってても結果は出るので。良い子どもを集めて鍛える訳ですから、伸びるのは決まっているのです。だから、反対意見として、エリートを育成する学校なのか、というのが出てくると思うのです。決して私は中高一貫教育の実施に反対している訳ではないのですが、エリートを育成する訳ではないのだという事であれば賛成します。自分の中学校だけの事を考えれば、優秀な人材を輩出するように頑張っていますが、だから言う訳ではありません。十和田市の従来の生徒達からすると、1つの学校だけエリートを作ってその連中を伸ばそうという話ではなくて、普通の生徒達を6年間育てる事によってより伸ばせる、という考え方でやって欲しいと思います。

#### 加福部長

中高一貫教育を実施するのは、ただエリートを育成するためなのか、という意見でした。中学校は三本木高校にくっついている訳ですが、この高校は大学進学率が非常に高く、成果を上げている学校です。三本木高校に併設した理由は事務局に聞いても良いと思いますが、あえて私に言わせていただくと、私はこのような会議に出ている、色々な新しい学校作りについて言おうか言うまいか迷いましたが、青森県では医者が不足しています。それこそ県内に1校で良いから、そういった生徒を中学校から集めて鍛えに鍛えて医学部に入れるような学校を作れば良いのではないかと思います。しかし、県は金がない、金がない、と言います。それを言うのであれば、誰かが言ったように、北海道から橋を渡す金があるのだったらそういう学校を作り、そうやって子どもを育て、青森県を作り直すとなれば、とても格好良いと思うのです。ですから、私は先程の意見とは反

対で、三本木高校で良いと考えています。エリートを育てて悪いと言うならば、では、できるならばエリートを育ててみなさいと思うのです。八戸、青森、弘前だけではなく、そのような学校を、五所川原でも、西北地区でもやってみれば良いのです。そうやって競争させるのです。今は御三家と言って3校しか話に出てきませんが、私はそのような事はないと思います。郡部の学校の子どもでも大学に行きたいのです。でも、行きたいと言っている内に、医学部と言うよりは薬学部となり、その時に残念ながら物理を教える先生がいないのです。その子どもはどうしたかと言うと、八戸市の学習塾に通って勉強したのです。残念ながら落ちたけれども、そのような子どもだって出てくるのです。先生の指導として、お前は頑張ればこうなれるだし、やりたい仕事があるのであればそれを勉強しましょう、と考えるのです。でも、勉強するのは良いのですが、他の教科を指導する先生がいないのです。その悔しい事と言ったら。そのような事もあるので、逆にこの学校はこのようにやっている学校だから、みんなが狙っている学校だ、という事でもいいと思うのです。おそらく地元の中学校でも、頑張っ勉強し三本木高校へ行き大学に行く、となるのが良いと絶えず言っているのだと思うのです。それが今は、人数が何人か引っ張られてしまうからと嫌がっています。では、私達はこの地区をどう考えるかです。やはり、三本木高校へくっつけたという事は、県でも狙いがあるのだと私は思うのです。私は、ここで上手く結果が出れば、あちこちの地域のそういった学校で出来ると思います。ですから、小学校の時から受験体制を作らなければならなくなってくるかもしれません。それは大変な時代だとは思いますが、そうやって頑張らせる方法も1つあるかなと思いますかどうですか。

#### 石川副部長

私達が担っているのは、義務教育です。そこは加福部長とスタンスが違うのは、自分の置いている軸足が別な事によるものだと思います。義務教育だという縛りの中で物を考えて行った時は、どうしても先程のような考え方です。

#### 加福部長

みなさんどう思いますか。

#### A 委員

確かに小・中学校は義務教育ですが、高校生も、大人になってからも競争社会で生きています。青森県は他県と競争して経済的にでも何でも頑張っ行かなければならない、上がって行かなければならない時に、上で引っ張る人、エリートという言葉は少し悪いかもしれませんが、引っ張って行く人材をもっと県から育てる事が必要だと思います。

#### E 委員

青森銀行のシンクタンクが出している報告があるのですが、青森県は人材を発掘する

県になったらどうか、という事を書いていました。私も素晴らしい人材を育て輩出して行く事が良いのではないかと思います。

加福部会長

私はその部分は少しだけ意見があるのですが、あちこちの大学に行くと大概の人は帰ってきません。例えば、東京辺りで何々やったとなると、青森県出身、十和田市出身、八戸市出身とか出るのですが、みんな向こうで頑張っています。でも、その頑張っている人達はこちらの地域のために何もしていないのではないかと、という話にはならないですよ。ああ、そのような人もいるのであれば、そちらの方向へと向かって行く人もいるだろうし。でも、もっと地元に戻ってくれば、地元にいればもっと違うのだと思います。企業でも農業でも、そのように一生懸命勉強した人達が帰ってくる事があまり無いのです。そこが塩梅なのでしょうけど。

D 委員

先程の三本木高校に云々と言うのは賛成です。勉強したい人はそれ以上できるようにやった方が良くと思いますし、うちの子ども達もそのようになって欲しいと思います。

加福部会長

こういう事を言うと何ですが、新郷の子ども達は殆どが外に出て勉強してくるという感じですか。

D 委員

そうですね。昔は新郷村からも、八戸高校に行きたい人は全員八戸市内の中学校に一旦入って、それから八戸高校を受けるさせるというのがありました。今でこそどこからでも入れますから、そういう事はなくなりましたが。ですから、良い高校へ入りたかったら良い中学校を出るというのも当たり前だと思います。だから中学校入学の自由化と言うのでしょうか、それも良い事だと思います。

石川副部会長

そういう発想であれば、そのような考え方になると思います。言っている事は当然の事だと思いますし、片方ではどこかで賛成している自分もいるのです。教育に何を求めるかという所から話が始まると思うのです。だから、そこが違っていると、どうしても平行線をたどる事になると思います。

加福部会長

中学校も全県一区になるとすると、郡部の高校ではどうなると思いますか。

## B 委員

それぞれの方々の話を伺ったの事ですが、それぞれの理由があると思います。しかし、向きが違って、大きな視点で見れば、同じ様な所もあるのではないかという気がしております。私自身は、加福部会長の、やってみようじゃないか、というのは試みとして良いのではないかと思います。この資料を見ますと、併設型と言えば、即学力重視という見方をしているのではないかと思います。連携型と併設型の違いについては私もあまり詳しくないのですが、印象としては、併設型とは同じ空間で学ぶ事に意義が凄くあるような気がします。例えば、小学校と中学校とで小中一貫をやろうという動きが私の町で出ていますが、結局、連結が上手く行っていないという事なのですね。ですから、同じ空間で学べば、中学校から高校へ連結が非常に上手く行くのではないかと思います。また、1つの形にこだわらないで併設型ができるのであれば魅力的だなと思います。ガチガチにならないで、例えば加福部会長が話されたように、とにかく医者がいなければ人材を育てようというのも1つの試みでしょうし、一方では生徒の心だって非常に大事ですから、そちらの方を増やして行こうという事であれば、それはそれで非常に高く評価できるのではないかと思います。

## 石川副部長

何度も言いますが、中高一貫教育に反対している訳ではないのです。賛成なのです。しかし、もし、三本木高校にやるのであれば、私は志願者全てにくじ引きをさせて決めれば良いと思います。そして、その入学した連中を6年間育て上げれば良いと思います。そして、6年間で鍛えられて成果が上がった、というスタンスなら良かったと思います。

## 加福部会長

三本木高校へ入るにはそれなりの学力が必要であり、その中学校へ入るにもそれくらいの学力が必要だという事でしょうか。

## 石川副部長

結局、知識は問わないと言いながらも、選抜の問題を見ればそれなりの学力がなければ駄目ですし、小学校から上がって行く子どもに、高校入試がベースとなった選抜が行われている訳です。増やして行くのは賛成ですが、ちゃんとその辺りを考えて欲しいです。

## 加福部会長

この中学校は、高校のような選抜とは違います。でも、中学校とはいえ県立ですから、それに耐えきれぬような子どもでないと、やはり途中で結局は子どもが困ると思います。

## B 委員

先程くじ引きという話がありましたが、くじ引きで意欲のある生徒等を落とす事が、果たして本当にそれで良いのかと思います。

#### C 委員

作り始めたそもそもの発想は、国際的にも通用するような人物を育てたい、という目的だったと思います。または、医者なのかもしれませんが、大きな発想で立ち上げられたと聞いています。ただ、私達の年代は、一生懸命勉強して良い高校へ入って、良い大学へ入って、大きい会社に就職して、それで勤めたまでは良いものの、残念ながらその会社は経営破綻してしまった、という時代でした。今もそういう可能性は勿論あるのですが、今度県立中学校に入学する生徒だって、今始まったばかりですから結果は今後出るのでしょうか、自分自身がしっかり目標を持っていないと望んだ通りの結果にはなっていないのかなと思います。確かに6年生の子ども達の話を見ると、ちょっと距離を置いたような感じで、頑張れよ、みたいな言い方をする人がいるとか、肝心の実際行く子に話を聞いてみても、部活がやりたいけどできるかどうか分からないとか、まだ学校の体制が整っていないような話をしていたと思います。

#### B 委員

小さい頃の、小学校で良く出来た、中学校で良く出来た、それだけで人生がもう決まりという訳では決してないと思うのです。中学校の時に成績が低い子どもでも、高校の1年生と2年生の前期でも芽が出ない子どもでも、もの凄い力を発揮する子がいます。優秀な高校ばかりにいる方は、あまりお目にかかれなれないと思いますが。ですから、それで全てだと言うのであれば、ちょっと待ってください、という事です。

#### 加福部会長

時間も迫ってきましたので、ここの部分についてまとめたいと思います。今後の中高一貫教育というのは、連携型が良いのでしょうか。この地区にはたまたま田子高校があります。それとも、併設型が良いのでしょうか。ここの部会としてはどのように見ますか。まだ結果は出ていませんが、併設型の方が何だか上手く行きそうな感じがします。連携と言うと、イメージとして、お前の所はお前の所でやれよ、というような感じが少ししますが、その辺りはいかがですか。

#### E 委員

併設型が良いと思います。

#### 加福部会長

そうですね。今回併設型としたのは、おそらく県が先進県の研究をやってきて、結果を出している学校が多かったからだだと思います。特に私学などは併設で、小・中・高・

大までやっている所があります。みんなでそれをやるとどうなるのか、と言う事はありますが。青森県は試しではなく、本当にここでやってみようという事で三本木高校に併設型で中学校を作ってくれました。最初だから注目されています。それが先程の話のように、仮に六戸高校だったらどうだったのでしょうか、という事になると、それは歓迎されていない部分ですよね。六戸高校だと交通の便がいまいちだとか、色々あるかとは思いますが。三本木高校は大学進学率が非常に高く、子ども達が切磋琢磨するのが見えて、部活動も頑張っています。勢いがあるうちにそこへくっつけて鍛えよう、という事なのかもしれません。いずれは、六戸高校でも併設型をやりたいとか、下北の大湊高校などでも連携型ではなく併設型にするとか、田名部高校を併設にするかもしれません。やはり三本木高校の責任は重いし、今いる子ども達も一生懸命やらねばならないという事を考えると、そういう意味では、併設型は良いと思います。検討会議には、良い物を三本木高校に作ってもらってありがとう、というのがこの部会の意見ですか。

#### B 委員

6年間生徒の事を知っている先生が同じ学校にいるという事は、中高の段差が無くなりますし、本当に素晴らしい事だと思います。私は詳しい情報は持ち得ていませんが、併設型が魅力的だと思います。

#### 加福部会長

そういった意味で、この地区に素晴らしい物を作ってくれて感謝したいという事です。3ページに進みますが、高大連携の在り方、これは高校と大学の連携について、という事ですが、意見のある方はいますか。資料の中では、オープンキャンパスへの参加も多くなってきているが見学等だけでは十分な理解が得られない、大学で学ぶ意義の一端を理解し選ぶ学部・学科のミスマッチを少なくするためにも可能な限り実施する方が良い、というような意見があります。

#### B 委員

今話がありました、オープンキャンパスや体験学習といったものは、各学校においては総合的な学習の時間を軸として取り組んでいると思います。例えば、私が連れて行った者の中には、大学の中を見たり学食で食事をしたりして、大学とはこのようにして学校生活を送っているのだという事を感じた者もいたのですが、それさえ分からない子ども達が多いのです。どうやって御飯を食べているのだろうか、どうやって英語を勉強しているのだろうか、知らない子ども達がたくさんいます。ですから、そうやって連れて行って、大学側で快く迎えてくれるというのは非常にありがたい事だと思います。また、今はどこの大学でも、色々お話をしていただけますか、とお願いすると気持ち良く来てくれます。例えば、工学部関係などでも実験に喜んで来てくれます。特に地元の弘前大学は積極的にやってくれます。三八地区では八戸工業大学ですとか、青森大学などでも

随分やられていると思いますが、非常に刺激になっていると思います。それから先程の話にありましたが、物理だとかを勉強していなくて工学部を受験し、入学する生徒もいたりしますが、ちゃんと大学の方でも面倒を見てくれています。それも事実です。非常に丁寧に教えてくれているようです。

#### 加福部会長

高大連携に関しては、大学に行く子ども達が途中からあきらめたりしないためにも、オープンキャンパスなどに連れて行ったりする事は大事だと思います。ただ本来的には大学は自分で考えて行くものですから、知らないで行く事もあるでしょうけども、途中で辞めるのは意志が弱いのです。ですから、そういった子どもを育てないように高等学校で鍛えてください、と言いたいのです。という事で、この辺りで今日の課題は大体終わりなのですが、皆さんの方から何かありましたらどうぞ。無いようですから、事務局にお返しします。

#### 閉会

#### 司会

熱心な協議ありがとうございます。御陰様でこれで本年度分の地区部会を終了いたします。3月に検討会議が開かれまして、その際に中間まとめという事で、諮問に対するおよその概要がまとまります。その中間報告を受けて、この地区部会は6月にまた開催させていただきます。年度が変わりますが、開催時期や場所等が決まった際にお知らせしますので、その際は出席いただきたいと思います。本日はありがとうございました。